

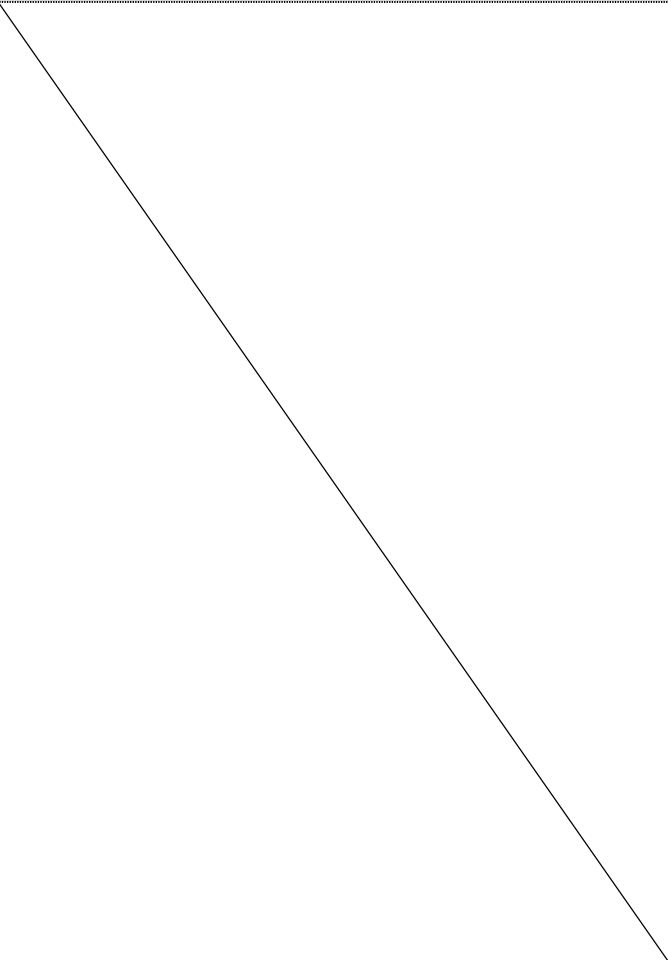
令和8年度 議会報告会 報告書

開催日時	令和8年4月18日（土） 10:00~10:40	
開催場所	保健福祉センター 会議室1	
議員参加者	大原裕貴、帰山和也、たかおか知子、中島健一、中村亮介、西崎薫、原なつ子、ひろせ久美子 福井利道	
参加者	6人（受付人数）	
所要時間	1 開会	10:00~10:07
	2 議会のあらまし	10:07~10:15
	3 2つのPTの取り組み報告	10:15~10:25
	4 質疑応答	10:25~10:40
質疑応答	参加者から出された主な質疑や意見	議員からの回答
	議会報告会はなぜオンライン配信などがなくクローズなのか。	過去にオンラインで配信したこともあるが、今回は双方向で意見交換をし、お互いに気づきを得られる機会にしたいと考えた。
	契約時の予算を見ていくことも大事だが、実際の契約や結果が良かったかどうか見える化をすることと、評価をするべきではないか。	事業の総括は9月定例会の決算審査で行っている。アウトプットの報告から市民生活がどう変わったかなどのアウトカムのところまで注意して考えたい。
	子どもの権利を守るというよりは人権を支えるあるいは伸ばすという考えで、国際的な先進事例を参考にしてほしい。	
	「会派ごとに考えが異なる」という話があったが、どの会派がどんな考えなのか見えないため、大事にしているものや考えを一覧などで公開してほしい。	
契約内容や事業について重要だと思うものを事前に抽出しておき、必ずチェックする体制をとってほしい。		
総括	質疑応答では回答の時間が長くなり後の意見交換の時間が少なくなった。想定的时间配分を確認しておく必要がある。また、参加者の少なさを指摘されていたため、今後も広報の仕方や開催方法について多くの方の参加に繋がる考えが必要である。	

当日の写真



令和8年度 意見交換会 報告書

開催日時	令和8年4月18日（土） 10:40～11:20	
開催場所	保健福祉センター 会議室1	
議員参加者	大原裕貴、帰山和也、たかおか知子、中島健一、中村亮介、西崎薫、原なつ子、ひろせ久美子 福井利道	
参加者	6人（受付人数）	
意見交換	参加者から出された主な質疑や意見	議員からの回答
	<p>（芦屋の子育て環境で良いところや課題は？）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園が多く、綺麗な公園が増えている。また、安全面にも配慮されている。 ・暑さが厳しく公園に行けないときに、屋内で遊べるような施設がないため、市外の施設に行っている。（一部日陰のある公園には行っている。） ・（見守り活動において）子どもたちが大人にも声をかけてくれる。 ・小学校の体育館にエアコンが設置された。 ・小中学校に自校方式の給食がある。 ・最近は集団登校が無くなってきている。 ・青色回転灯防犯パトロール車などによる子どもの見守り活動がある。 ・コミュニティスクール活動の充実が体験格差の解消にもつながっているのではないか。 ・あしや部（芦屋市在住の高校生による市民活動団体）などの活動が活発である。 ・打出教育文化センターがリニューアルして、不登校の子どもたちが通えている。 	
	<p>医療的ケア児を抱える保護者として、子どものために看護師の配置を含めて公立幼稚園を申し込んだ際に、市内に医療的ケア児が少ないといった理由から、手続きが非常に困難で、不安に感じた。医療的ケア児の専門の担当者がいないことも課題。こうしたケースをそのままにしておくことは良くないのではと考えている。</p> <p>また、今まで同じ境遇の保護者とのつながりが無い。</p>	<p>医療的ケア児等コーディネーターは市の社会福祉協議会に配置されている。協議会も立ち上がっており、ハンドブックも発行予定である。一方で、最初に保護者の方が相談に来られるのは市の窓口なので、そこは市議会としても不安を与えないように要望していく。市議会としても、医療的ケア児については研修等を受けるなどしてきており、市内でも保護者同士のつながりがあることは確認している。保護者同士の意見交換も大事であると考えている。また、本市ではインクルーシブ教育に取り組んできているが、手が回っていないことも事実である。例えば、現在全ての学校で取り組まれていることを集約して、拠点校的な位置づけの学校をつくっても良いのではないかと考える。</p>

意見交換	<p>子ども基本条例の策定に係る進捗状況は？</p>	<p>これからあしや部などの若い世代との意見交換を予定している。</p>
	<p>学童保育の保護者会で子どもや親はデジタル化が進んでいるのに、行政のIT化の遅れを感じている。防犯カメラの設置は事後報告だったので、経緯や意見を言える場がなかった。議会への相談は効果的なのか。</p>	<p>市議会としては、市民からの要望や苦情を受け付けた際には、市民とともに繰り返し行政に働きかけ、予算審議の前から意見を伝えるなど、行政と市民の間のズレを埋める「橋渡し役」として取り組んできている。</p>
	<p>通学路や登下校時の安全、見守り活動が薄れ、防災計画や防災倉庫の実効性にも不安がある。公園や空き地、高齢者との接点減少で子どもの居場所不足も懸念される。</p>	<p>危険箇所の把握は学校や地域と連携して行うべきで、市民からの情報提供を歓迎する。委員会などを通じて行政に具体的対策を求めている。</p>
	<p>条例をつくっても、それが現場に落ちてこない。一度つくって終わりにならないか不安である。</p>	<p>芦屋らしい子育て環境を整備するためのこども基本条例の策定に向けて、現在、プロジェクトチームで検討中である。法的課題を整理しつつ、「つくって終わり」ではなく、改正を前提とした柔軟な運用を目指したい。</p>
	<p>子ども会やPTAの維持が難しく、居場所やつながりが弱まっている。</p>	<p>決定的な解はまだないが、地域が実施する防災訓練にクイズを取り入れるなど、子どもが参加しやすい工夫が行われている。こうした取り組みは重要であると認識している。</p>
総括	<p>行政と市民のコミュニケーションの齟齬、子どもの安全（通学路や集団登校）、地域コミュニティの弱体化の話題が出た。特に、学童保育の保護者が使っていた配信ツールが新しいものに移行した際の混乱や、保護者の声が行政に届きにくい現状が指摘された。また、こども基本条例の策定に向けた議論や、高齢化・核家族化による地域の見守り機能の低下に関して活発な意見が交わされた。</p>	
当日の写真		

令和8年度 議会報告会 報告書

開催日時	令和8年4月18日（土） 13:00~13:45	
開催場所	保健福祉センター 会議室1	
議員参加者	浅海洋一郎、岩岡りょうすけ、川上あさえ、川島あゆみ、田原俊彦、寺前尊文、西村まさと、橋本隆、福井美奈子、山口みさえ	
参加者	12人（受付人数）※左記以外に児童1名の参加あり。	
所要時間	1 開会	13:00~13:05
	2 議会のあらまし	13:05~13:13
	3 2つのPTの取り組み報告	13:13~13:25
	4 質疑応答	13:25~13:45
質疑応答	参加者から出された主な質疑や意見	議員からの回答
	議決事件に該当しない契約等の報告を求める条例について、契約締結後の報告では意味があるのか。	契約後であることを理解しながらも、現在、総務省の見解が変更されない状況である以上、議決案件となることを目指しながら、まずは報告を求める条例をつくりたい。近年、プロポーザルでの契約が多くなっているが、この議決案件にかからないこともこの考えの原点でもある。
	不登校児童・生徒の学ぶ権利の保障をどうするのか。民間の支援も含めた形が必要である。また、不登校による保護者の退職も問題である。	子どもは守られるべき存在であるが、意見を集約する際に、議員個人だけでなく子どもの意見を広く聴く必要がある。また、経済的なサポートを進めている自治体もあるため、今後議論を行い進めていく。同じ状況の保護者が集まるようなグループも存在するが、子どものサポートとして、のびのび学級に施策的広がりがあるため、今後に期待したい。
フルインクルーシブの芦屋は普通学級での支援に限界があるように思う。また、支援員の要員が足りないように思う。今後、支援が必要な子の取り出し教育を行わないのであれば対応が必要である。	個別具体の回答は難しいが、インクルーシブ教育に対する経費はあるが、先生の業務の中で見落としが存在することも理解する。また、先生の確保も必要と感じる。全ての学校でのインクルーシブでなく拠点校を設定しての取り組みを考えていくことも提案ができる。	
総括	午前の部と比較して、参加者が多く効果が高く感じられた。 キッズゾーンの設定も利用者がおり、十分機能していた。	

当日の写真



令和8年度 意見交換会 報告書

開催日時	令和8年4月18日（土） 13:45～14:20	
開催場所	保健福祉センター 会議室1・2	
議員参加者	浅海洋一郎、岩岡りょうすけ、川上あさえ、川島あゆみ、田原俊彦、寺前尊文、西村まさと、橋本隆、福井美奈子、山口みさえ	
参加者	12人（受付人数）※左記以外に児童1名の参加あり。	
意見交換	参加者から出された主な質疑や意見	議員からの説明・回答
	PEACEサポーターの取り組みについて、どのように考えているのか。	現在、すべての小中学校（8校）でPEACEサポーターを1名配置している。サポーター制度を導入してからまだ数年しか経過していないため、今後も動向を注視していく。
	本市が行っている平和への取り組みについて聞きたい。	小学校では広島に行き、平和学習を行っている。また、市としては8月に平和資料を展示している。
	子どもたちの居場所も大切だが、空いている場所などによっては高齢者が集える場所等の確保も大切である。	
	災害時の避難所になっている全ての小学校が停電になることも想定し、蓄電池や太陽光パネルの設置はできないのか。	不可能ではないが、何かと国の補助金を頼りにしている現状があり、そのハードルを越えていく必要性を感じている。
	インクルーシブ教育において、支援員を増員し、取り出し教育の頻度を多くしてほしい。	そのような声を形にするよう努めていく。
	PTA役員のなり手や登下校時の見守り人員不足解消のため、市として「子どもはみんなで育てる」という発信をさらに増やし、子どもを育てる環境を整えてほしい。	広報・啓発活動によって、PTA・ボランティア・見守り活動などに気軽に参加できるという環境を整えていく。
	教員不足が慢性化しており、現場実態に応じた人員配置が難しくなっていないのか。	市から県の教育委員会に対して、引き続き教員配置の充実や増員要請を続けていく必要がある。また、教員が働き続けやすいよう、多様な就業形態の設計も検討課題である。

	参加者から出された主な質疑や意見	議員からの説明・回答
意見交換	担任一人に負担が集中しない仕組みとして、教科担任制やチーム担任制の導入を検討すべきではないか。	担任一人に依存しない体制づくりは、負担軽減や相談体制の充実の観点から有効であり、今後の検討課題である。
	医療的ケア児の地域での受け入れは法整備後に進んでいるが、教育現場だけでなく、医療・福祉・保健との連携が不可欠ではないか。	医療的ケア児支援については、医療・福祉・保健・教育が連携し、現場を支える体制の強化が必要である。
総括	子育て・教育に関わる意見や要望が多く出され、今後の議員活動に活かせられる指摘もあり、実りの多い会であった。	

当日の写真



当日の写真

